

平成22年12月の解説（週間天気予報）

【12月の天候状況】

上旬は、東日本から沖縄・奄美は天気が数日の周期で変わり、晴れる日が多くなりました。北日本は低気圧や気圧の谷の影響をうける日が多く、曇りや雨または雪の日が多くなりました。2日から3日は発達する低気圧により全国的に天気が崩れ、大雨や暴風など大荒れの天気となりました。中旬は、低気圧が短い周期で日本付近を通過したため、ほぼ全国的に曇りや雨または雪の日が多くなりました。下旬は、はじめ発達する低気圧の影響により全国的に天気が崩れ、大雨や大雪となった所がありました。その後は冬型の気圧配置が続き、日本海側は寒気の影響により雪の日が多く、旬の中頃は北日本で、終わりは西日本で記録的な大雪となり交通障害などの災害が発生しました。一方、太平洋側では東日本を中心に晴れる日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、北日本は平年よりかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。降水量は、沖縄・奄美は平年より少なくなりましたが、その他の地方はかなり多くなり、月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。気温は、北、東日本は平年よりかなり高くなり、月平均気温の最高値を更新した気象官署がありました。沖縄・奄美は低くなりました。

【12月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^{（注）}より1ポイント低い73%でした。地方毎の適中率は、北陸、沖縄地方でそれぞれ例年より9ポイントと8ポイント高くなりましたが、北海道、九州北部地方でそれぞれ6ポイントと11ポイント低くなり、その他はほぼ例年並みでした。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、ほぼ全国的に例年より0.2 から0.3 小さくなり、全国平均は0.2 小さくなりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差もほぼ全国的に例年より0.2 から0.3 小さくなり、全国平均は0.2 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【2月の週間天気予報の利用にあたって】

2月は他の月に比べ東、西日本の太平洋側でも雪が降りやすく、東京の雪日数の平年値は3.5日と一年で一番多くなります。この太平洋側の雪は雨になるか雪になるか微妙なことが多く、週間予報でも通常の天気予報と同様に「雨または雪」などのように予報を表現します。このような場合、雨が夜に雪へ変わり積雪となることがあります。例えば関東地方では2010年2月1日夜に雨から雪になって2日未明まで降り続き、内陸部を中心に積雪となった所もあり、各地で転倒やスリップ事故が発生しました。これら太平洋側の地方は雪に慣れていないため、少しの積雪で交通障害などが発生するので、積極的に降雪に備えることをお勧めします。